

広報委員が地域の皆さんに
インタビュー!

神楽で地域繁栄を祈る若郷のヤカミ衆に お話を伺いました。(取材・前田勝利)

ヤカミ衆とは、神楽に携わる老女たちをそう呼んでいます。ヤカミ衆は、

神社などで神歌をうたい、若郷地域の繁栄をひたすら祈りを捧げるのが仕事です。5年ほど前までは行われていたのですが、現在は見ることはありません。ヤカミ衆の方にいろいろたずねてみました。

前田/何歳からヤカミ衆に入りましたか？

ヤカミ衆/65歳のときに入りました。歌が好きだったので、入る5年ほど前から、先輩の元ヤカミ衆の家に通い、歌を教えてもらいましたが、難しく覚えて苦勞しました。

前田/誰に頼まれてヤカミ衆に入ったのですか？

ヤカミ衆/若郷の神社の役員に頼まれて入りましたが、先輩のヤカミ衆から頼まれて入った人もいます。私は同級生3人と入りました。昔は65歳になる前から入っていたようで、多くの女性が入っていました。だいたい80歳でヤカミ衆から抜けていたようです。

前田/神楽はどのくらい時間がかかるのですか？

ヤカミ衆/時と場所によって違い、2時間以上かかる時もありました。

前田/博物館ではヤカミ衆の活動記録を映像で後世に残そうとしていますね。

ヤカミ衆/映像の保存には、10名の方々が協力してくれています。集まった全員で相談し、今なら、まだ残せると思いました。



▲正装して神歌をうたい、若郷の繁栄を祈るヤカミ衆の皆さん
(前田テウ、前田タン、前田榮子、前田トヨ子、前田芳枝、岩切都志江、富田フミ子、磯部成子、梅田志津子、磯部せつ子)

＜新島の神楽とヤカミ衆＞

昭和33年に東京都の無形民俗文化財に指定された神楽。昨年11月に新島の「大踊」がユネスコ無形文化遺産に登録され注目を集めています。こうした芸能は地域の人々が担い手となっているため、担い手の確保が大変で、保存継承が難しくなっています。

令和6年第1回定例会が開催されました。大沼弘一村長の施政方針を聞き、行政運営(住民に寄り添った)に期待するところ。一般質問に立った議員たちも、各々の視点から住みよい島づくりのために質問をしていました。

1年の海難修繕工事が終了して、連絡船にしきが戻って来ました。代船も新たに購入して、新島・式根島間の移動も今まで以上に安心して利用できるところでしょう。代船も今までみたいに検査の時だけに使うのではなく、いろいろな使い道を考えてくれることを期待しています。連絡船にしきも戻ってきたので、去年以上、コロナ前以上に観光客が増えてくれることに期待したいと思います。

前田 卓秀